

仏様のおはなし新シリーズ第95集「浄土をいただいて生きる」

教えとは、何でしよう？浄土真宗の教えを聞かせていただくと、私は、どうなるのでしょうか？

淨土真宗は、「浄土をいただいて生きる」「浄土に照らされながら生きていく」、そういう教えです。この「教え」によつて私の姿や社会の姿を知らされていきました。また、その知られた姿からどう歩んでいくかを指示していいるのも「教え」です。それが私の「生き方」につながっていくものです。少しだけ、自分の姿を振り返つて考えてみます。

私は、少年剣道の指導のお手伝いをしています。小学1年生から始めた剣道。育てていただき道場では、これまでにお二人の師範との別れがありました。どちらの先生も、偶然にも浄土真宗のご門徒がありました。

いざれお浄土で師範とお会いさせていただく今を生きています。お会いしてお念仏の話をするのかと言うと、正直想像がつきません。きっと剣道の話にしかならないでしょう。でもそのときに、「よう頑張ってくれたね」そう言つてもらえるように、毎日の少年剣道の指導に向き合おうと思つています。常に師範が私の姿を照らしてくださいます。

同じように、親鸞聖人ともお浄土でお会いできる、いや、こちらは、お会いしなければならない、とも言えます。

これはちょっと複雑です。お会いしたいけれど、果たして、今ままの私で、親鸞聖人に顔向けてできるでしょうか。あちらは、こちらを、お見通しです。

私の言葉。私の実際。そのズレ、ゴマカシ。到底、「お念仏一つに生きてきました」「自分の姿を問い合わせてきました」などとは言えない姿であります。

そういだくと、「このままの私や社会でいいのだろうか」と動かされます。いつかお浄土で親鸞聖人にお会いして、笑顔でご報告できるように。そう言える今を、日々を歩んでいくうといだく姿です。

浄土をいただいて生きていくとする今の私の、ジレンマであり、喜びであります。

